

全ての問題の核

今日の預言アップデートも、いつものように、皆さんには忍耐強くお付き合いいただければと思います。今日は、たくさんの地政治の層を剥がして行って、それによって、私が問題の核心だと見ている部分に迫りたいと思います。この数か月ずっと気になってきた事、またそれに関して、意見も伝えてきたのは、今流行りの「偉大なるアメリカ」とそれに伴って、ようやく達成されようとしている中東の平和「への新たな希望」です。

まず皆さんに知っておいて欲しいのは、私の中にも、それが起こって欲しいと願う気持ちはあるのです。私はこの国を愛していますから。私の両親が『合法的に』この国に移民していなかったら、私は、今生きていたかどうか分かりません。私は、救われていたかどうか分かりません。私の両親は、中東から逃れて、この偉大なる国に移民してきたのです。私は、この国を愛しています。

数か月前、娘が「America the Beautiful」をアカペラで歌っている動画を、妻がオーディションに出しました。ニューヨークで行われる、US オープンのオーディションだったのです。娘は、オーディションに通過し、ニューヨークでの個人オーディションに招待されて、「America the Beautiful」を歌いました。娘が、神から与えられたあの声で歌うのを聴いていると、これが、私の娘だという理由だけでなく、ただ涙があふれました。アメリカは、本当に美しいですから。私たちがアメリカを美しくするのではない。今日私が、神がお与えになり、私に牧させてくださっているこの素晴らしい教会の説教台に立って、美しいアメリカが、再び偉大なアメリカになるのを見たいと、願わないわけがない。

また、私はイスラエルとユダヤ人を愛しています。さらに、私の同族アラブ人達の為にも、私は何よりも中東の平和を見たいと願います。だから、それを成し遂げようとする全ての働きに、私は拍手を送ります。しかし、問題があるのです。私の別の部分が、それは起こらないと思っている。ただ、私はそれが起こるとは見ていません。私が間違っている可能性もあります。どこかで、自分が間違いであればと願う気持ちもあります。そしてもし、私が間違っているなら、喜んで訂正を受け入れます。それでも、私が見ているのは、「偉大なるアメリカ」でも、「中東の平和」でもなく、突如の滅びです。皆さんの喜びに水をさすようで、申し訳ないのですが、それでも、現在起こっている事の全てが、聖書で預言された、この先待ち受ける「困難な時」に向かっていると思います。

これからお話しする事を、よく考えてみてください。「中東の平和」について。

皆さんに理解して欲しいのは、中東の平和は、平和の君、イエス・キリストが統治、支配されるまで決して起こりません。それまで、中東には真の平和はありません。それでも、とりあえず、中東における“ある種の平和”があるとして、その平和が、アメリカにある種の偉大さを取り戻させるとします。皆さんにお聞きしますので、よく考えてみてください。それが意味する事、それがもたらすものが、つまり「イエスはまだ来ない。」という考えに向いていませんか？どういう意味か？マタイ 24:45-51 を開いてください。イエスが教えておられる、ものすごく興味深いたとえ話です。この中で主は、忠実なしもべと悪いしもべを対比しておられます。なぜ、片方が忠実なしもべで、もう片方が悪いしもべなのか。主の示唆され

ている、その内容がとても興味深いのです。

“主人から、その家のしもべたちを任されて、食事には彼らに食事をきちんとあたえるような忠実な思慮深いしもべとは、いったいだれでしょうか。主人が帰ってきた時に、そのようにしているのを見られるしもべは幸いです。まことに、あなたがたに告げます。その主人は彼に自分の全財産を任せるようになります。ところが、——”（マタイ 24:45-48）

その反対が、48 節に書かれています。

“それが悪いしもべで、『主人はまだ帰るまい。』と心の中で思い、その仲間たちと打ちたたき、酒飲みたちと飲んだり食べたりし始めていると、そのしもべの主人は、思いがけない日の思わぬ時間に帰って来ます。そして、彼を厳しく罰して、その報いを偽善者たちと同じにするに違いありません。しもべはそこで泣いて歯ざしりするのです。”（マタイ 24:48-51）

分かりますか？ 忠実なしもべ、賢いしもべは考えるのです。

「主人は、すぐに戻って来られる。不意を突かれる事のないようにしよう。」

「主は、すぐに戻って来られると私は思う。主が私に申し付けられた事を忠実に行っているところを、主に見て欲しい。」

「主が来られた時に、不意を突かれる事のないように。」

「私は、主が戻って来られるのを待ち望んでいて、主は思いがけない時に来られるのだ。」

そうして、主人の仕事に励みます。これに対して、もう一方はどうでしょう。悪いしもべです。正反対です。

「主は来ないよ。心配いらない。」

ここでよく聞く言葉ですよ？

「心配いらない。」「急ぐ必要はない。」「楽しもう！」

これが彼らのしている事です。

「まだまだ時間はある。」「主はまだ戻ってこない。」「長い間戻ってきていないんだ。」

「急ぐ必要はない。」「慌てなくて良い。」「楽しもう。食べて飲んで、好きに生きよう。」

そして彼は、そうするのです。それはひとえに、緊迫性はないと彼が思っているからです。もしかすると、彼も、

「その時が来たら…遠い将来？主が戻って来られるのがもっと迫ってきたら、真剣に受け止めよう。」と
思っているかもしれない。

「その時には、ちゃんとしよう。でも今はノープロブレムさ。」

「自分の人生、好きな様に生きるさ。」

「慌てて神の事に真剣になる必要はない。」

「主はまだまだ帰って来ないのだから。」

これが、核にある問題です。私は、これが核にある問題だと見ています。全てうまく行っている。急ぐ必要はない。何も緊迫していない。何も心配いらない。これによって、人々は霊的に眠りこけていくのです。

「まだ時間はあるよ」「全てまた偉大になる。」「全てがまた良くなるんだ。」と。

面白いのが、私は当時いくつだったかわかりませんが、まだ幼かった時の事です。母が、地元新聞の一面記事を見て言ったのです。その前夜の日没が、息をのむほど、とても美しかったのです。本当に壮大で優美で、それでいてどこか不気味でもあったのです。それだけでなく、新聞の第一面の見出しが、「再臨のような日没！」と書かれていました。わお！それに対する母のコメントは、「これは、良い事よ！」「あんな日没を見て、皆が再臨について語るなんて。」と言ったのです。9.11の後の事を、覚えていますか？全政治家たちが、「アメイジンググレース」を歌っている写真を見ましたか？そして、唐突に『靈的目覚め』のコラムですよ。問題は、この世で、この世のものによって、居心地が良くなると、私たちは次の事への興味を失いがちです。そう思いませんか？それに対して、物事がうまく行っていないと、良い状態でなければ、逆にこの緊迫性が、靈的目覚めとなる事が多々あります。

クリスチャンと、患難前携挙について話をしながら、何故クリスチャンなのに、携挙を喜んでいないのか検証してみたら、彼らにとって、それはワクワクする事ではなく、恐怖なのです。そして、なぜそうなのかと答えを探していく内に、私が気づいたことがあります。唯一、これに説明がつくのは、彼らは離れたくないのです。この地上が素晴らしいから。この一時的な地球に、彼らはあまりにも深く根を下ろし過ぎた。物事が順調で、恐らく素晴らしすぎるのでしょう。彼らは離れたくないのです。

何度もお話ししてきた、私の話をします。全く自慢には思っていないですが、高校の時、私は教師の息子で、とても反発していました。その時はまだ、救われていませんでしたから。私は、高校の後で救われたのです。ともかく、当時の私は、バカな事を行って停学になりました。わざと行っただけです。どうしても良かったから。一週間の停学で、もう少しで退学になり卒業できないところでした。それが、父にはとてもショックでした。父はその教師で、なのに私は停学になり、もう少しで退学になって卒業できないところでしたから。でも一人だけ、クリスチャンではありませんでしたが、私を庇ってくれた先生がいたのです。写真について、暗室で現像の仕方まで私に教えてくれました。先生にも娘さんが居たので、私に同情したのでしょう。「お前はFarag先生の息子なんだ。優秀なクラスに入れるはずだ！」と言われ、一回だけ、間違っただけで優秀なクラスに入れてしまって、二度とそんな事をしないようにしましたよ。それぐらい反抗していたのです。その先生がある日、私を呼んで言った事が、ものすごく深く、預言的な意味があると気づいたのは、それから一年後です。先生は、「高校の中で、全てが順調に行っていると、あなたもきっと卒業したくなかったでしょう。」と言いました。そういう方いませんか？高校時代が人生最高の輝かしい日々だと言う人。私はそれを聞くたびに、「これが最高なのか？これが全てなのか？」「これが最高なの！？」「勘弁してくれ！！」「もしこれが頂点で、あとは下り坂なんて！！」と思っていたのです。私の高校生活は、全く良くなかった。そして先生が言ったのは、「だから、あなたはここから出るのが待ちきれないのでしょ？」私は、これこそが事実だと思いました。卒業式が待ちきれませんでした。全てが嫌でしたから。素晴らしい経験をした人たちは、未だに高校の“クラスリング”を着けていたり、ジャケットがまだ着れたり。と言っても、まだクラスリングをしている皆さん、God bless you!!ダメだという意味じゃありませんよ。そういう事が言いたいんじゃないです。彼らはいつも過去の中に生きています。何故かと言えば、彼らにとってはそれが輝かしい日々だから。彼らにとっては、人生最高の日々なので

す。でも私にとっては、卒業が待ち遠しくて、待ち遠しくて、早くそこを出たくて仕方ありませんでした。何が言いたいかお分かりですね？

この世で物事が順調でないと、私たちは去りたいと願うのです。「主よ、早く来てください！！」しかし、物事が順調なら違います。結婚する前は、私は「主よ、結婚するまでまだ来ないでください。」と言い、結婚したら、今度は「主よ、早く来てください！お願いします！早く！」と言う。子どもに関しても同じです。「主よ、どうか子供が生まれるまでは、まだ来ないでください。」と言い、そして、子供が生まれたら、「主よ、今！今すぐ来てください！」と言う。多くの人が、「素晴らしい日が待っている。」という考えに、蝕まれているように見えます。「全ての事が良くなる。」しかし、繰り返しますが、これが核となっている問題です。その反対である事は、預言的に大きな意味を持つ地政治の展開の数々を見れば十分でしょう。私は真逆だと思います。こう話している間にも、アメリカの中で起こっている事、アメリカに対して起こっている事、カタールとイランの協力関係。これには驚きでした。その他の事、すべてです。

一つの例として、昨日、アメリカの19州28都市で起こった『反シャリア（イスラム）法』のデモの様子です。全米で行われた「反シャリア法」デモに対して、イスラム支持者たちが、横断幕を手に大衆で



出てきています。その一つは、「ユダヤ人は、イスラム教徒と共に立つ。」それから、クリスチャンの皆さん、これはどうですか？「自分を愛するように、イスラム教徒の隣人を愛しなさい。」驚いたのは、Fox ニュースのあるコメンテーターの発言です。

——「現在この国がどれほど分裂しているか、これを見れば分かる。」——

「一致すれば立ち、分裂すれば倒れる。」という言葉がありますが、かつては偉大だったこの国の舞台裏で、実際に起こっている事を追っている方は分かると思います。この国を滅ぼそうと、操っている動きがある。この Fox ニュースのコメンテーターが伝えていたのは、

——「この国の分断は、どんどん悪化しているように見える。」——

ソーシャルメディアで、再び出回っている動画が暴走して、追い打ちをかけています。その一つに、去年8月に出回った動画の中で、有名な序中であるアンジェリーナ・ジョリーが、イスラムの事を「美しい宗教」と呼んでいます。以前にも言いましたが、私が生後9か月の時に、父母が移民してきたアメリカは、55歳の私が今日住んでいるアメリカとは別物です。これが現在のアメリカの“新しいリアリティ（現実）”のようです。

これに加えて、先週起こった驚愕のニュースが、先ほど言いました通り、カタールを巡る唐突の地政治的な動きです。これに関して、事の重大さを強調してもしきれないでしょう。特に、皆さんもおなじみのエゼキエル38章の観点から。この、突然起こった諸国の同盟関係の移行は、エゼキエル38章に列挙された国だけでなく、さらに重要なのは、不気味な形で、エゼキエル38章の預言に名前が挙がっていない国に関してです。火曜日の Ynet ニュースがスーダンが危惧を表明したことを報じていて、彼らはこれを「アラブとカタールの亀裂」と呼びました。それだけでなく、彼らは仲裁も申し出ています。これは現在、湾

岸の危機なのです。月曜日のスーダン外務大臣の発言を引用すると、

——スーダンの外務大臣が、スーダンの人たちにとっては、兄弟同然のアラブ諸国の間で起こった不幸な展開に対して、深く危惧している事を表明した。——

これはスーダンの初の公式見解で、サウジアラビア（シェバ・デダン/エゼキエル 38:13 です。）と、エジプト（エゼキエル 38 章には出てきません、）とアラブ首長連邦と、バーレーンが提携してカタールとの外交関係を絶った事に対して、スーダンの公式発表です。

月曜日、JerusalemPost が報じたのは、

——“カタール事件”によって、現在イスラエルは、テロと戦う名目の元アラブ諸国と提携して、テロと戦う事を望んでいる。防衛相リーバマンと、他のイスラエル高官は、「中東のテロリストの強い後ろ盾となっているカタールとの関係を絶つ決断は、全世界に提携する機会を与えるだろう、」と発言。リーバマンは、月曜の午後、複数の中東諸国が、カタールとの国交断絶という驚愕の決断に応じて、「これは、イスラエルにとって、イスラムテロと戦う場において、近隣諸国、周りの人たちに加勢する絶好のチャンスとなる。」サウジアラビア、エジプト、アラブ首長国連邦、バーレーン、イエメンが、裕福な湾岸の国と国交を絶ち、テロを支援している事でドーハ（カタール首都）を非難した。世界シオニスト機構の MK Eyal、元イスラエル防衛軍高官でもあるベン・ルベンは、「カタールの決断は、イランに敵対する穏健派アラブ諸国とのイスラエルの『利益の共有』を示唆し、イスラエルは、世界のテロ輸出国であるイランとの対立に際して、これを利用すべきだ。」「この輪は、アラブ諸国との異なる関係を可能にする。しかし、その対価は、パレスチナ問題解決への一歩だ。」と言った。——

パーフェクトです。パレスチナ問題と、リーバマン防衛相の発言と言え、木曜、Times of Israel が報道で、リーバマンの発言を引用しています。

——「パレスチナとの合意に、これまでに無かったほど、近づいている。」——

そして同じ言葉がまだ出て来ます。

——「アラブ諸国と、全面的な関係を結ぶ機会が、ネタニヤフ政府が協議を受け入れるように、揺さぶるだろう。」リーバマンが、木曜日チャンネル2に語ったのは、「我々は、これまでになかったほどに合意に近づいていて、この選択が、現実のものとなる事を願う。」リーバマンは、合意内容に関して、“調節”を示唆した以外、詳細を明かさなかった。しかし、ドナルド・トランプアメリカ大統領と彼の政権は、道を整える役割を果たした事、地域の他のプレーヤーも存在する事も示唆した。合意はなるか？との質問に、リーバマンは答えて、「トランプが、現場に登場したから。また、いつも言ってきた通り、アラブ諸国は彼らの問題は、イスラエルでなく、イスラエルが問題の解決になり得る事を内在化したからだ。」来週、Times of Israel のインタビューを予定している、リーバマンは「ベニヤミン・ネタニヤフ首相は、とらえどころのない協議の合意に全力を捧げている。」ネタニヤフが、あらゆる手を尽くすかと言え、彼はするだろう。彼は、素晴らしい働きをすると、私は証言できる。——

ここ、特に注意して聞いてください。

——トランプは、イスラエルとパレスチナに平和協議を推し進め、『究極の合意』にこぎつける為、両者を支援したいと言う。——

『究極の合意』です。『究極の合意』とは何か？どんな事をしてもと？それは、ユダヤ人といわゆるパ

レスチナが、平和と安全の中で、隣り合って生活する事です。だから、私が見ている先には、中東の平和はなく、偉大なるアメリカもなく、突如の滅びが見えるのです。第一テサロニケ 5:3「人々が、『平和だ。安全だ。』と言っているそのようなときに」、この究極の合意をもたらす者自身の、この究極の合意に対するあくなき追及、何を犠牲にしてでも、あらゆる手を尽くし、この究極の合意を達成し、人々が「平和だ。安全だ。」と言っているそのような時に、この究極な合意の中で、

“突如として滅びが彼らに襲いかかります。ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、それを逃れることは決してできません。”（第一テサロニケ 5:3）

これが私の結論です。

今日の預言アップデートは、始めにお話しした内容で終わりたいと思います。事実多くの層がありますが、全ての層を剥がしていくと、核となる問題が出てきます。これがその核となる問題です。具体的には、現在起こっているすべての事が、私たちが生きる、今の時を知り、目を覚まさせるきっかけとならなければなりません。そして一旦目が覚め、自分たちの生きる今の時代を理解したなら、私たちにはすべき事があります。イッサカルの民だっと思いましたが、彼らは、自分たちの生きている時代を理解するだけでなく、その時のイスラエルがすべき事も知っていました。第一歴代誌 12:32 は、かなり興味深いです。歴代誌の著者は、戦争に備えられたイッサカルの男たちの数を細かく分けて列挙し、ヘブロンのだビデの所に行って、サウロの王国を彼に引き渡そうとしました。この歴代誌の著者が記載している、分割の中で、イッサカルの子孫の時に、彼はこのような詳細を加えています。

“イスラエルが何をすべきか知っている彼らのかしら200人。”（第一歴代誌 12:32）

これに関して、さらに興味深いのは、ここに込められた予型です。説明します。これは、だビデよりも偉大なる方、だビデの子の予型、イエス・キリストと、王国が彼に渡された時に、彼に従う忠実な者たちの予型です。サウルは、王国を続けて支配しようとする悪魔の予型であり、その王国は、キリストの予型であるだビデのものであり、また、それは間もなくだビデの手に戻されようとしています。これが予型です。G.Campbell Morgan がこう言いました。この章の一言一言が伝えているのは、だビデの偉大なる子、だビデの子、神の御子、イエス・キリストとそして、だビデよりも偉大なる方の周りに集まる者の思いを含んでいる。イッサカルの子孫のように、だビデよりも偉大な方の周りに私たちは集まり、王国はだビデよりも偉大な方に渡されるのです。イッサカルの子孫は、自分たちの生きている時代を理解し、何をすべきかを知っていた。

そこで問題は？時代を理解した私たちは、何をしなければならないのか？感謝な事に、私たちには答えがあります。ローマ書 13:11-14 に、パウロがこう書いています。

“あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、このように行いなさい。あなたがたが眠りから覚めるべき時刻がもう来ています。というのは、私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからです。”（ローマ 13:11）

私達の主人が、もうすぐ帰って来られます。主の帰りが遅くなることはありません。

“夜はふけて、昼が近づきました。ですから、私たちは、闇のわざを打ち捨てて、光の武具を付けようではありませんか。遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみの生活ではなく、昼間らしい、正しい生き方をしようではありませんか。”（ローマ 13:12-13）

「急ぐことはない。主人はまだ帰って来ないから。」と言う、悪いしもべのようでなく。

“主イエス・キリストを着なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません。”（ローマ 13:14）

今日もまた、「救いの ABC」で終わりたいと思います。



私が牧らせていただいている、この素晴らしい教会の中に、神の御霊によって新生していない人が居るかもしれません。また、オンラインチャーチの皆さんの中、Youtube でこの動画を見ている方も同様です。もしこの中に座っておられる方の中、もしくは、そちらにいる方の中で、これまでに一度も主の御名を呼び求めて救われていない人は、どうか今日、今日がその時です。今がどういう時

なのか、理解してください。私たちの主人の帰りが遅れる事はありません。

ABCに加えて、聖句を紹介します。

A=Admit（認める）

あなたが罪人であり、救い主が必要であることを認める、もしくは認識するのです。私たちは、生まれながらに罪人だから、

“人は新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。”（ヨハネ 3:3）

“「義人はいない。ひとりもない。」”（ローマ 3:10）

唯一、イエス・キリストだけです。ローマ 3:23 にはこうあります。

“すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることが出来ず”（ローマ 3 : 23）

“すべての人”がまた後ほど出てきます。だから、呼び求める人は“すべて”なのです。神の完璧な義の基準です。私たちは全員が、律法を犯し、全員が戒を破ったのです。そして、

“罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主イエス・キリストにある永遠のいのちです。”（ローマ 6 : 23）

“あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。行いによるものではありません。だれも誇ることのないためです。”（エペソ 2:8-9）

B=Believe（信じる）

イエス・キリストが主であると、心で信じるのです。

“あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。”（ローマ 10:9）、

C=Call, Confess（呼ぶ、告白する）

主の御名を呼び求めるのです。

“なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。”（ローマ 10:9）、

理由はこれです。

“人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。”（ローマ 10:10）

“「主の御名を呼び求める者は、**だれでも救われる。**」（ローマ 10 : 13）

最後に一つ。世界中から、祈りの依頼が来ています。今朝、礼拝前の祈禱会でお話ししましたが、イギリスからだったと思います、祈りの要請にあったのが、彼らは救われたいと言い、「救いの ABC」が事実であるように祈って欲しいと言うのです。どうですか？神のみことばの權威によって、私が保証します。これは、まさに真実です。全くの真実、真実以外の何物でもない真実です。

“わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。”（ヨハネ 14:6）

と言われた方、他に道はなく、これが真理です。そして、

“もし子があなたがたを自由にするなら、あなたがたはほんとうに自由なのです。（ヨハネ 8:36）

この真理が、あなたを自由にするのです。

祈りましょう。

天のお父様。今日もまた、この愛するあなたの人々の前で、この無償の賜物、救いに対して、どのようにすれば、あなたに十分感謝の気持ちが伝えられるのか分かりません。全ての人に差し出され、主の御名を呼び求めるすべての者に与えられます。今日この場に、もしくは世界のどこかでこれを観ている人が、あ

あなたが心の扉を叩くのを聞き、自分の罪を認め、救い主であるあなたが必要であることを認識して、あなたに扉を開きますように。心で信じ、口で告白して、イエス、あなたを呼び求めて、今日、彼らが救われますように。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

このメッセージはカルバリーチャペル カネオへの JD ファラグ牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、Calvary Chapel Kaneohe (英語)、「DIVINE US」(日本語)を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」

ヘブル4:7

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe

47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by まい